

館長随想

ウランガラスの化学史的背景

妖精の森ガラス美術館 館長
畠山 耕造



妖精の森ガラス美術館は、2006年4月、世界で唯一「ウランガラス」を広く紹介するために建設された施設である。ウランガラスは、ガラスの実体となる珪砂、溶融剤としてのアルカリ成分、ガラスの質を安定させる石灰といったガラス原料に、着色剤としてごく微量のウランを加えて制作した黄緑色の色ガラスで、紫外線を浴びたときに緑色の蛍光を放つという特色を持つ。

2006年の開館から8年経った現在でも、入館者の方から「なぜウランをガラスに使うのですか?」、「危険はないのですか?」という質問を受けることが多い。こちらからは、「ウランは18世紀末に発見されてから150年位の間、主にガラスの着色と陶磁器の釉薬として使われてきました」と答えている。安全性については「ウランガラスに使われているのはほんの微量のウランなので、その放射線量は自然環境から受けるものとほとんど変わりません」という説明を行っている。

実際に、欧米や日本のガラス産業界では、1930年頃まで膨大な量のウラン化合物が着色用に用いられてきたし、チェコでは、戦後に世界のガラス造形を主導してきたスタニスラフ・リベンスキー(1921~2002)や、彼の指導を受けたガラス作家たちが、今でもウランガラスを用いて立体作品を制作している。陶磁器の世界では、オーストリアからイギリスに渡った世界的な陶芸家、ルーシー・リー(1902~1995)や、人間国宝の十三代今泉今右衛門(1926~2001)がウラン化合物を釉薬として用いている。ただ、大局的に見た場合、ガラス産業界や陶磁器産業界で盛んに使われたのは1830年代から1940年頃までで、1943年にアメリカがマンハッタン計画により原子爆弾の開発を始めてからは、ほとんど使われなくなったというのが実情である。

最近、ウランの発見者であるドイツの化学者ハインリッヒ・クラブロート(1743~1817)の論文を入手した*。クラブロートは瀝青ウラン鉱(Pechbrende)を酸で溶かしたものをアルカリで中和し、黄色い沈殿物を作った。それを木炭とともに加熱して黒い粉末を得、それを新しい元素と思い込み「ウラニット」と命名した。ガラスの着色では、金属灰(Metalkalk)と呼ぶこの黄色い沈殿物に、酒石酸やホウ砂、リン酸などを加えて4色の色を作り出している。磁器については、この金属灰を焼き付けてオレンジ色を発色させている。

クラブロートによるガラスや陶磁器の着色法は、すぐさまヨーロッパ各地に伝わり、工場付きの調合師(Arcanist)によって実験が繰り返された。その成果は1830年代に実を結び、ボヘミア、イギリス、フランス、アメリカなどで、かなりの数のウランガラスが生産されるようになった。

クラブロートによる金属分析は当時の最先端のものだが、この「金属灰」という概念は「燃焼はフロギストン(燃素)の放出の過程である」というフロギストン説のものである。この考えで行くと、金属→金属灰+フロギストンとなるが、木炭はフロギストンが大量に含まれているので灰がほとんど残らない(木炭→灰+フロギストン)。そのため、木炭と金属灰を一緒に燃焼させると、木炭に含まれる多量のフロギストンが金属灰に移動し、金属灰はもとの金属になる(木炭+金属灰→灰+金属)。クラブロートが木炭によって金属灰を還元し、新たな金属元素を発見したと思いついたのは、このような前提から考えると納得がいく。

ラヴォアジェが金属の燃焼に関して、金属+酸素→金属灰という理論を発表したのは1779年で、それがフロギストン説を駆逐して定着するのは19世紀に入ってからということ考えると、クラブロートのこの誤認も仕方のないものといえる。ともあれ、フランス革命勃発の年に発見されたウランという物質が、20世紀になって世界を大変革し、その行く末までも左右することになるとは、さすがのクラブロートも予感だにできなかったに違いない。

* "Chemische Untersuchung des Uranits, einer neuentdeckten metallischen Substanz; von Hrn Prof. Klaproth: 新しく発見された金属実体、ウラニットの化学的研究: クラブロート教授(1789年)



ボヘミアのゴブレット(1840年代)

新規加盟館紹介

ベティスミス ジーンズミュージアム



ジーンズの歴史、製造工程にまつわる貴重な資料を展示する施設として2003年に開館した「ジーンズの博物館」。ジーンズ作り体験工場が併設し、実際にジーンズ作りを体験することができます。また、国産ジーンズ草創期から製造を続けている縫製工場の見学、Betty's Storeでのお買い物も楽しみ頂けます。

2014年4月には、国産ジーンズを深く知ることができる施設として、新たに「国産ジーンズ館」がオープン。実際に加工を行っていた工場の姿をそのまま残し、ジーンズのまち 児島の「歴史」と「技術」を体感できるスポットとなっています。

- 【所在地】〒711-0906 岡山県倉敷市児島下の町5丁目2番70号
- 【TEL】086-473-4460
- 【FAX】086-473-2789
- 【E-mail】betty@betty.co.jp
- 【URL】http://www.betty.co.jp/museum/
- 【観覧料】無料
- 【開館時間】9:00~18:00(※12月~3月 17:00まで)
- 【休館日】年末年始(12/29~1/4)
- 【交通案内】電車/岡山駅よりJR瀬戸大橋線で約25分
上の町駅下車徒歩約15分
車/山陽自動車道岡山ICから車で約60分
山陽自動車道児島ICから車で約10分
バス/JR瀬戸大橋線児島駅から約15分
(下の町瀨八幡宮前下車)

◇賛助会員の動向

平成25年度で「内海プラント(株)」「備前信用金庫」が退会し、平成25年度中に4団体、平成26年度から7団体が新たに入会されました。これにより平成26年5月末現在の賛助会員数は53となりました。新規賛助会員の概要は下記のとおりです。(入会受入順)

詳細は今後、本誌において随時ご紹介させていただきたいと思います。

- 団体名: 株式会社山田養蜂場本社
所在地: 岡山県苫田郡鏡野町市場194番地
- 団体名: 株式会社朝日新聞社岡山総局
所在地: 岡山市北区野田屋町1-12-11
- 団体名: 友野印刷株式会社
所在地: 岡山市北区高柳西町1-23
- 団体名: 日本放送協会岡山放送局
所在地: 岡山市北区駅元町15番1号
- 団体名: 菅公学生服株式会社
所在地: 岡山市北区駅元町15番1号
- 団体名: 岡山放送株式会社
所在地: 岡山市北区学南町3丁目2-1
- 団体名: 倉敷木材株式会社
所在地: 倉敷市中島1000-1
- 団体名: 株式会社山陽新聞社
所在地: 岡山市北区柳町2-1-1
- 団体名: 株式会社クロスカンパニー
所在地: 岡山市北区幸町2-8
- 団体名: 山陽放送株式会社
所在地: 岡山市北区丸の内2丁目1-3
- 団体名: 株式会社トミヤコーポレーション
所在地: 岡山市北区表町2-2-83



本年度総会が5月23日(金)、岡山県立美術館において開催されました。加盟館79館中69館(委任状31館)、賛助会員を含む56名が参加しました。

次第

- 会長挨拶 岡山県立美術館長 鍵岡正謹
- 人事異動に伴う役員変更の報告
- 副会長 岡山県立博物館
谷名隆治館長(前館長 田村啓介)
- 副会長 倉敷市立美術館
橋本篤男館長(前館長 坂田卓司)
- 理事 赤磐市山陽郷土資料館
前田正之館長(前館長 正好尚昭)
- 理事 奈義町現代美術館
岸本和明館長(前館長 笠木義孝)

議事

- (1) 新規加盟館について
 - 「ベティスミス ジーンズミュージアム」
- (2) 平成25年度事業報告について
- (3) 平成25年度収支決算書について
 - 監査報告について
- (4) 平成26年度事業計画について
- (5) 平成26年度収支予算(案)について

以上、すべて承認されました。
- (6) 各館提出議題
 - 現代玩具博物館・オルゴール夢館より「加盟館の連携事業について」

(7) その他

- 国立公文書館アジア歴史資料センターより「国立公文書館アジア歴史資料センターにおける広報活動について」
 - 岡山県教育庁文化財課より「岡山県文化財等救済ネットワーク(仮称)について」
 - 事務局より「okayama ebooks について」
- ★各館提出議題にありました「加盟館の連携事業」については、アンケートを行い、研修会等の機会を利用し、20周年と同様、有志による検討会をもちたいと思います。
- ★各館の広報ツールとして「国立公文書館アジア歴史資料センター」や「okayama ebooks」をぜひご活用ください。
- ★「岡山県文化財等救済ネットワーク」については、今後、県文化財課と協力して、緊急連絡網づくり、防災研修など行っていききたいと思います。

平成26年度事業計画(今後の予定)

■ 研修会

- 第1回目 文化財の取り扱い研修
 - 仏像等立体作品の梱包と輸送方法 —
 - 日程：平成26年10月頃開催予定
 - 場所：岡山県立博物館
 - 講師：美術品取扱専門業者、県立博物館学芸員ほか
- 第2回 魅力的なミュージアムグッズ、オリジナルキャラクターの開発について
 - 日程：平成27年3月頃開催予定
 - 場所/講師：未定

■ 普及広報

- ① 「加盟館パンフレット」(来館者へ無料配布)の作成
- ② 岡博協創立25周年記念事業に関するアンケートの実施
- ③ 「会員名簿」(加盟館用 簡易のもの)の作成
- ④ 会報「岡山の博物館」(No.46・47)の発行
- ⑤ 加盟館・賛助会員への会員証(優待券)の発行

「軽便鉄道と岡山」



講師 在間 宣久氏 (前岡山県立記録資料館館長)

講師の在間氏が長年研究されている交通史の中で、現在は廃線になり消えてしまっている岡山県内の軽便鉄道の歴史について、「軽便鉄道と岡山」と題し、かつて岡山にあったそれぞれの軽便鉄道の路線について設立から廃止までの経緯、また各路線の特徴などについて路線図や株主の構成をまとめた表などの様々な資料を基に、お話しをしていただきました。

軽便鉄道とは

1887年(明治20)の私設鉄道条例に始まり、1892年(明治25)の鉄道敷設法により鉄道ブームが起き、全国に鉄道がつくられていった。

岡山県内でも私設鉄道条例に基づき山陽鉄道の神戸～岡山間(現在の山陽本線)、鉄道敷設法により中国鉄道(現在の津山線、吉備線)が作られた。

日清・日露戦争を経て鉄道の重要性を再認識した軍部の意見もあり、1906年(明治39)に出された鉄道国有法により有力な17の私鉄が政府に買い上げられ国有化されることになった。

政府の政策や軍等の輸送機関として国有化は有効であったが、細かく厳しい私鉄の設置基準では地方の経済の発展について支障があるということで、1910年(明治43)に出された、設置の基準を簡略にした軽便鉄道法、政府の補助を明記した軽便鉄道補助法を契機に全国に軽便鉄道が次々と作られ、軽便鉄道ブームが起きた。

岡山の軽便鉄道

岡山では、四国航路の重要な港を結ぶためのものや高松稲荷の参詣用、また地域内の人口密集地をつなぐための路線として軽便鉄道がつくられた。

西大寺と後樂園をつなぐ西大寺鉄道、三幡港と国清寺をつなぐ三幡鉄道、中国鉄道の稲荷(備中高松)と稲荷山(高松稲荷)をつなぐ稲荷軽便線、茶屋町と下津井をつなぐ下津井鉄道、笠岡と井原、矢掛、神辺をつなぐ井笠鉄

道の5つの路線で、最長の路線は井笠鉄道で37km、最短は稲荷軽便線の2.4kmといずれも短小で非常にローカルな路線であった。

完成した路線以外にも、申請をしたが却下されたもの、認可されたものの経済状況などから建設が進まず、完成することなく期限切れで失効した路線も多数あり、もしこれらの鉄道ができていれば、県南では蜘蛛の巣状、県北では津山を中心にヒトデ状に鉄道網が張り巡らされたことになったであろう。

軽便鉄道の資本構成

短小な軽便鉄道には大資本が必要ではないということではあるが、実際に設立する際にどのように資金をあつめていったかということを見ていくと軽便鉄道の特徴がよくわかる。

株主の多くは小口の株主で地元の人々である。それに加え地元の資産家が大株主になっている例、また地元ゆかりのある企業、有力者に出資してもらっている例もある。

いずれにしても、地元中心に資金を集め、それに資産家や企業の資金を合わせて会社を設立している。

これらのことから、軽便鉄道は地元地域の人々を中心に設立され、運営されていったことがわかる。

軽便鉄道の終焉とバス会社

軽便鉄道の旅客数は、戦後昭和20年から30年代にピークを迎えたが、昭和30年から40年代のモータリゼーションにより自動車普及すると旅客数が減っていった。それ以前から、各鉄道会社は収益確保のため、自社の鉄道の路線に平行するようにバス路線を運営するようになっていた。

バス路線の経営により会社の収益はよくなっていったが、便利なバスに鉄道の旅客がどんどん奪われ、バスの収益が鉄道の収益を大幅に上回る結果となった。こうして、鉄道は衰退し、次第に廃止されその姿をけしていくことになった。

現在、中鉄バス、両備バス、下電バス、井笠バスなど多くのバスを岡山で目にするが、意外にこれほど多くの会社のバスが運行されている町はあまり多くない。岡山で運行されているこれらのバス会社の多くは、これら軽便鉄道が前身となっている会社である。

(編集 津山郷土博物館 梶村 明慶)

「話し方のテクニック～ギャラリートークのスキルアップを目指して～」

日時：平成26年2月28日（金）13：30～16：00

会場：岡山県立美術館

講師：石田 芳恵氏（フリーアナウンサー）

日頃から多くの加盟館で、職員のみならず、アテンダントやボランティアスタッフが作品解説やギャラリートークを実施しています。そこで今回は、現役アナウンサー石田芳恵氏をお招きして「話し方のテクニック～ギャラリートークのスキルアップを目指して～」と題し、研修会を開催しました。

講演では、「伝わる」話し方には「戦略」があり、限られた時間内で言いたいことを確実に伝えるための3つのポイントが話されました。（ポイント1）結論、感動のポイントはなにか？を意識した話し方の構成（ポイント2）相手に合わせた下準備がコミュニケーション能力のブラッシュアップにつながる（ポイント3）魅力的な声、自分本来の声を磨くこと、そして最後に「思いやり」という人間性をプラスすることが大切という内容でした。

当日は130名以上の参加があり、職員の他、多くのアテンダント、ボランティアスタッフが熱心に聴講されました。講演後、廣瀬就久学芸員（岡山県立美術館）が「レオナルド・フジタとパリ 1913—1931」展の会場で作品解説を行いました。以下、参加者の感想です。



研修に参加しての感想

- 対話型鑑賞のナビゲーターをしています。ぶっつけ本番でやっていたのですが、構成を大事にして、もう一度今日のお話の基本にかえて、やっていきたいと思えます。
- 型にはまった内容ではなく、経験にもとづいた工夫を話していただき、より実践的であると感じました。普段から気をつけているけれど、何となくやっていたことにあらためて注意をしていくことだと思います。
- 「人の集中力は90秒」「聞いた人が得した気分になるような」…など心に刻んだ言葉があります。「自分の持っている本来の声でしゃべる」これも忘れずにいたいと思いました。
- 話をするとき、どうしても早口になってしまいます。“テンポや間”は大事だと思うのですが、空白の時間が怖く、またあまり長いと変にもったいぶった感じにならないかと思っています。“テンポ”“間”のコツを身につけたいです。
- 全体的にわかりやすく具体的な事例も紹介されて良かったと思います。ギャラリートークに生かせると思います。「くせをなくす」この一言でいろいろと気づいたことがありました。
- 自分の言いたいことが言えるようになると、人を傷つけがちになる、ということが一番共感できました。
- メモの書き方、役に立ちました。シンプルに伝えることの難しさと、準備の量の10分の1しか伝えられないもどかしさを再認識できました。
- いつか慣れると思って、果敢に人前で話す機会ではがんばってはいるのですが、なかなか慣れなくて困っていました。でも、理論的にお話して下さったのでとても糧になりました。自分の得意なところ、苦手なところが明確になったので、がんばっていききたいと思います。
- キンチョーしない方法が、たくさん準備をする、という事に納得しました。
- ハミングで鼻孔を震わせる方法、さっそく試してみたいと思います。
- 話がまとまらず長くなる傾向があるのですが、シンプルに最も大切なことから話すということが原点と聞いて少し肩の荷が降りました。聞き手の方に親切な話し方を心がけたいと思います。
- 先生の美しい響きのある声で、詳しくご説明していただきとても勉強になりました。手書きの文字が、画面に出て先生のお気持ちが伝わりました。よかったです！新鮮でした！
- 限られた時間でまとめることはとても難しいなと思いました。自分の言いたいことを完璧に話すのではなく、分かってもらうことが一番大切だと改めて教わりました。

岡山市水道記念館

水道事業のシンボル

岡山市の水道は、明治38年7月23日、日本で8番目の近代水道として通水を開始しました。以降一度も断水することなく、365日24時間市民の皆様の生活を支える水を送り続けています。

岡山市北区三野に在る水道記念館は、昭和60年7月、通水80周年の記念事業として、通水開始時に動力室・送水ポンプ室として使用されていた建屋を改築し開館しました。その外観は、創設当時の姿をとどめた赤レンガ造りのモダンな洋風建物で、平成17年2月には国の登録有形文化財となりました。建物入口上部に刻まれた、水の徳は永遠に続くという意味の表す「坎徳無窮」の文字が、水の尊さ・ありがたさをたたえています。

開館以降、小学校の社会科学習等、多くのお客様にご来館いただいていた水道記念館ですが、平成17年4月、通水100周年を記念してリニューアルオープンしました。水の性質や不思議さを体験できるミニ科学館「サイエンスプレイランド」、岡山の水道の歴史や水道水ができる仕組みがわかる「水と暮らしのゾーン」の大きく2つのゾーンで構成された館内は、目で見、手で触れて、楽しく遊びながら「水の性質」「水道」「岡山の水」について学習することができる施設へと様変わりしました。中でも、大きな水鉄砲で的の水車の回転数を競う「アクアシューター」は、行列の絶えない人気アトラクションです。

また、毎年7月23日の通水開始日には記念イベント

「水道の日フェスティバル」、8月中旬から下旬にかけては夏休みイベント「水の実験・工作室」といった親子参加型の特別イベントを、学生ボランティア等との協働で開催しています。これら特別イベントの実施にあたっては、内容のマンネリ化を防止するため毎回趣向を凝らしつつ、PR活動にも力を入れており、リピーター客の獲得や水道記念館の認知度向上に一役買っています。これらの積み重ねの結果、リニューアルオープン以降、順調に来館者数は増加しており、近年は1万人を超える方にご来館いただいています。平成26年2月には、累計の来館者数が20万人を突破しました。

これからも、断水のない本市水道事業のシンボルともいえるこの貴重な建物を末長く後世に引き継いでいくことで、市民の皆様へ水の大切さ・水道に対する理解を深めていければと考えています。

（岡山市水道局企画課 総務課長 豊田 選久）



水道記念館



大人気！アクアシューター



水の実験・工作室の様子

竹久夢二生誕130年

明治17年(1884)、現在の瀬戸内市邑久町に生まれた竹久夢二は、2014年に生誕130年を迎えました。そして夢二郷土美術館本館もまた、現在地に移転して30周年を迎えています。この記念の年に、特別展をはじめとした多くのイベントを開催しています。

まず、夢二郷土美術館本館では「夢二の愛したこと」をテーマに3連続の企画展を開催しています。「Part1 夢二の愛した女たち」(3月18日～6月1日)では、新収蔵品《半襟図案「さふらん」》の公開に合わせ、姉妹館提携をしている群馬県・竹久夢二伊香保記念館より半襟と浴衣の図案をお借りして展示、デザイナーとしての夢二の仕事にふれて頂く良い機会となりました。

現在は「Part2 夢二の愛した子どもたち」(6月3日～8月31日)が開催中で、三児の父としての、また幼い頃への郷愁の思いから生まれたこども向けの仕事をご覧頂いています。「子供之友」挿絵原画ほかをご出品頂きました瀬戸内市立美術館様には、この場を借りまして御礼申し上げます。

第3弾は「Part3 夢二の愛した日本」(9月2日～12月7日)。青森から長崎まで、本州各地へ旅を繰り返した夢二。日本にとどまらず、晩年には欧米へも旅しています。ある時は衰微した港町に自らを重ね、またある時は土地の盆踊りに飛び入りしたりと、旅先で得た様々な体験があらわされた画や句をご紹介します。

夢二生家・少年山荘(夢二郷土美術館分館)では、五節句の催しにくわえて、人形劇やコンサートといったイベントの日を中心に、邑久・本庄地区婦人部「夢二おもてなし隊」による様々なふるまいや、お弁当の販売などが行われています。夢二が病床で懐かしんだ鯖のお寿司など、ゆかりのメニューで好評を頂いています。

さらに、夢二の生誕日(9月16日)を中心に、特別展が全国を巡回します。今回は、音楽と美術を愛し、街と暮らしの彩りを大切に2人の芸術家―竹久夢二とトゥールーズ・ロートレックをテーマに据えました。それぞれの生涯を代表作でたどるとともに、ロートレックとの対比という視点を加えて、夢二作品の魅力を変えてご紹介いたします。

「生誕130年 竹久夢二展 ベル・エポックを生きる夢二とロートレック」

- 8月27日～ 9月 8日 京都高島屋
- 9月11日～ 9月23日 岡山高島屋
- 9月26日～10月 6日 日本橋高島屋
- 10月15日～10月27日 横浜高島屋

9月13日には、デザイナー・水戸岡鋭治氏と館長・小嶋光信、今年で第3期を迎えた当館の「子ども学芸員」たちを迎えてパネルディスカッションを開催する予定です(会場:さん太ホール)。

その他、岡山市内を路面電車「KURO×夢二」が運行したり(冷房使用期間は運行休止)、夢二の描いた着物の再現など、様々なイベントも開催しています。生誕130年という節目の年、郷土・岡山にて様々な方向から夢二に親しんで頂く良い機会になればと思います。

(夢二郷土美術館 子川 さつき)



着物の再現



〈生誕130年記念ロゴマーク〉
ハートと握手のモチーフに次世代へ夢二を伝えたいという思いを込めた。(デザイン:水戸岡鋭治氏)



〈130年記念グッズ〉
美術館オリジナルグッズ「ゆめじ和紙てぶ」



本館企画展「夢二の愛した女たち」展示風景



KURO×夢二電車 水戸岡鋭治氏のデザインによるラッピング電車

岡山県博物館協議会賛助会員企業・団体一覧 (平成26年7月1日現在)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (株)朝日新聞社岡山総局 | (株)成通 |
| (株)イーオン | 全日信販(株) |
| (株)岩井工業所 | タカヤ(株) |
| 医療法人えんさこ医院 | (株)田中商会 |
| (株)大手饅頭伊部屋 | (株)中国銀行 |
| (株)大本組 | 中国建設工業(株) |
| 岡崎共同(株) | 東洋砕石工業(株) |
| (株)岡山医学検査センター | (株)トマト銀行 |
| 岡山ガス(株) | (株)トマコレーション |
| 公益財団法人岡山県郷土文化財団 | 友野印刷(株) |
| 岡山市農業協同組合 | トヨタコーポラ岡山(株) |
| 岡山大腸薬品(株) | (株)トンボ |
| 岡山放送(株) | (株)ナイカイアーキツ |
| (株)岡山臨港 | 鳴本石材(株) |
| 管公学生旅(株) | 日本通運(株)岡山支店 |
| (株)菅田 | 日本放送協会岡山放送局 |
| (株)キャリアプランニング | 峰谷工業(株) |
| 倉敷木材(株) | (株)林原 |
| (株)クロスカンパニー | 日生運輸(株) |
| 坂本工業(株) | (株)フジテクノアート |
| (株)佐野組 | フルハーフ岡山(株) |
| 三友不動産(株) | (株)ベネッセホールディングス |
| 山陽映画(株) | (株)山田養蜂場本社 |
| (株)山陽新聞社 | 岡備ホールディングス(株) |
| 山陽放送(株) | |
| (株)サンラヴィアン | |
| シャープタカヤ電子工業(株) | |

編集後記

今年も会員各位のご協力のもと、平成26年度総会を無事終了することができました。こうして20年以上の長きにわたり協議会活動が続いているということは、全国的にも稀有なことと話題になりました。今後さらに25周年にむけて、少しでも加盟館の皆さまに役立つ活動ができるよう努めていきたいと思っております。どうぞお気軽にご意見、ご要望をお寄せください。

(岡山県博物館協議会 事務局 福富 幸)

岡山県博物館協議会会報

岡山の博物館

No.46 平成26年7月発行

編集・発行 岡山県博物館協議会

会長 鍵岡 正謹

事務局

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

岡山県立美術館内

TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648